

### 摂食・嚥下チーム

5病棟准看護師 牧 康江

今年度は口腔ケアの見直しを行いました。歯磨き後、個々のウェッティで拭き取る事を追加し、いつでも口腔内をケアできるように変更しました。このことで肺炎予防にも繋がると考えています。口腔ケアマニュアルも改正し、教育チームへマニュアル変更を依頼しています。

お食事廻診を毎週金曜日に行っていましたが、各病棟で食事介助者が増えた上にマンパワー不足もあり、廻診に出席することが困難となってしまう1月で終了することになりました。

四国摂食・嚥下障害研究会が徳島で行われました。当院から発表することはできませんでしたが研究会へは6名参加することができ、患者様の食に対する強い思いなど聞くことができ勉強になりました。来年度は発表できるように活動していきたいと考えています。



### 褥瘡対策チーム

外来看護師 南 元子

今年度は、褥瘡の経過不良の患者さんに対し、外部の医療機関に往診を依頼する事で、専門的な意見を聞き、今までにないア

プローチを行う事ができました。更に11月からはリハビリスタッフが介入することで、患者さんの個性に合わせたポジショニング枕の使用や、筋緊張を溶かすポジショニング法など、専門性を活かした情報交換ができました。そして今回、評価・ケアの見直しをしていく中で、ルーチンなケアにとらわれず柔軟な対応をしていくことの大切さを痛感する事例がありました。やはり患者さん一人ひとりに合った対応を見つける、気付きとアセスメントが重要であると感じています。今後の課題として、スタッフの誰でも同じケアを行えることが理想であり、そのために患者さんに関わる全職員の意識付けが「褥瘡ゼロ」への近道になると考えています。

### 医療機器チーム

5病棟看護師 百田 波恵

今年度は

- ①使用後の医療機器の正しい取り扱い方法がスタッフに周知できるように働きかける。
- ②コスト面・安全面・使用頻度・使用方法の視点から医療機器、物品の見直しを行なう。

という2つの目標を基に活動を行なってきました。目標①について、これまで使用後の医療機器が洗浄後、委託業者に出すための伝票処理がされずに放置されていることが多くありましたが、医療機器室に機器の名称と写真の掲示を行なった結果、洗浄後の医療機器が正しい方法で処理されている事が格段に増えたという結果につながりました。目標②について、医療物品の簡素化のために、看護職員の意見を参考に輸液セットの

タコ管付きを廃止しました。延長チューブもメーカーを変更することで、年間約6万円の経費削減に成功しました。

来年度も見直しを行なっていきたいと思っています。

### 教育チーム

外来看護主任 西野 光世

教育チームでは、今年度研修会を11回開催しました。内訳は、高知赤十字病院出前講座3回、当院医師による研修1回、職員による研修4回、外部業者による研修1回、eラーニング2回です。今後、より多くの職員に興味を持って勉強してもらえるような研修会の在り方を考えていきたいと思っています。

今年度からeラーニングが導入されました。看護手順は、当院の手順と照らし合わせ修正等行っています。eラーニングの動画講義は集団での研修にも利用しています。

入院時、患者様にお渡しする書類の検討も行いました。現在使用している物に加えて神経難病病棟(2・3病棟)のしおりを作成しました。今後は、患者様、ご家族がより分かりやすくスムーズに入院できるように書類を作成、渡す方法についても検討していきたいと思っています。

## 第21回 高知県精神科総合研究会

H30.3.16(金)  
高知会館

「当院の開放病棟における長期入院患者への退院促進を考える」 5病棟看護師 前田 春樹

3月16日、高知会館において「第21回高知県精神科総合研究会」が開催され、「当院の開放病棟における長期入院患者への退院促進を考える」と題した当院の取り組みの一環を発表してきました。他施設の発表も大変勉強になりました。特に、心に残った発表内容を報告します。

土佐病院の心肺停止への初期対応の改善では、初動チームを立ち上げ活動を開始したことにより質の高いBLSの維持が可能となっています。日本救急学会認定ICLSインストラクターの育成・コースの定期開催も軌道に乗るなどすばらしい取り組みで、是非当院でも取り入れ、認定ICLSコースの定期開催ができればと感じました。

藤戸病院の退院困難が予想された高齢入院患者に対しての病棟看護師による早期退院支援の取り組みでした。精神疾患を患った高齢者入院患者の話聞き性格の特性を理解したう

えでのケアを計画的に実施していくことで疎外感が薄れて行き、安心感から自己肯定感が高まるという

良い循環が生じたという症例の発表はとても参考になりました。

鏡川病院の多飲症患者に対し、飲水チェック表を使って数値化することで、患者さんに変化が見られたという事例でした。当院の多飲症患者の看護でのヒントを頂くことができました。

前回の徳島での研修や、今回の研修は、有意義で学びの多い研修になりました。今後とも自己研鑽に努めていきます。



## 院内学術研修会

H30.1.15(月)  
行動制限最小化研修会

学術研修委員会委員長 精神科部長 玉元 徹

H30.2.13(火)  
医療ガス講習会

平成30年1月15日に行動制限最小化研修会の同年度第2回が開催されました。

例年通り、講師に、高知県立あき総合病院精神科認定看護師の奥村清氏をお招きして、講義していただきました。奥村氏もだいが当院の精神科の実情に慣れていただき、内容が当院の実情に合うものがますます豊富になって、なおかつ精神科以外の部署の方々にもわかりやすい内容となっておりますので、非常に感心致しました。2回とも講義をお願いしたいと感じましたが、その直後に考え直して私も頑張るって当院の職員のみなさんにためになるような講義をしなければならないと肝に銘じました。



奥村清氏  
高知県立あき総合病院  
精神科認定看護師

平成30年2月13日には、毎年恒例の医療ガス講習会が開かれました。



榎田正利氏  
四国アセチレン工業株  
所長代理

いつもお世話になっている榎田正利さんの講演でしたが、いつも聞きしても、少しずつ知識が豊富になるとともに、毎年忘れやすい事柄もあり、同じことでも毎年やっていただく意義があると強く感じました。少し間違えるだけで大事故になりかねない機器ですので、毎年のことですが、今回も我々職員全員にとって非常に重要な事柄であり、周知するための最重要義務であることを痛感しました。